

研究計画概要書

研究課題名		医療系大学生における自尊感情と被養育体験との関連
研究組織	研究責任者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻 基礎看護学講座 教授 玉腰浩司
	研究分担者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻 3年 山田 麻友
	共同研究者 (所属・職名・氏名)	
	研究事務局 (機関の名称・住所・連絡先)	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻 基礎看護学講座 玉腰研究室 〒461-8673 名古屋市東区大幸南1丁目1番20号南館247 TEL: 052-719-1564 (直通) e-mail: tamako@met.nagoya-u.ac.jp
研究の意義・目的		<p>自尊感情とは自分をきちんと評価し受け入れること、自分の意見をしっかりと見え自己決定できること、人間関係を形成しつつ生活をしていると自覚していること、自分を大切に思える感情のことである。これは自分が重要だと考える側面での有能性と、それを支持する身近な大人や仲間の評価を基盤に形成される。</p> <p>この自尊感情を高め、社会生活に生かすと、何事に対しても積極的に取り組み、豊かな体験を積み重ねていく中で、さらに自信が付き、自分を受け入れることができる。それに加え、自己と同時に他者を肯定的に捉えたり、他者の異なる価値観や失敗も受け止めていくことができるようになる。</p> <p>上に述べたようなことは、患者という人と接する時間が一番長い看護師はもちろんのこと、地域の人々やあらゆる職場でも必要なことであるため、社会生活を送る上で自尊感情は重要な役割を持っている。社会生活の始まりであり、基本単位である家庭は、この自尊感情の育成に影響していることが推測される。よって、今回、自尊感情の形成に必要な要因として被養育体験に注目し、下記の研究計画を立案した。本研究結果は、看護師等、人と関わる職業にて良好な関係づくりへの応用ができると考えられる</p>
主な選択基準		(対象) 名古屋大学医学部保健学科の学部生1~4年生約300名程度のうち、研究に同意しアンケートに同意したものを対象とする。青年期というある程度的人格が確立された方々の自尊感情がどのくらいであるのか明らかにしたいと考え、対象とした。
研究方法 (多施設共同研究の場合は、 本学の役割も記載)		(調査方法) 対象に調査依頼を行い、本研究の内容・方法に同意した場合のみ回答していただくように説明する。調査依頼期間は倫理委員会承認日から2017年10月。自己記入式質問紙を用いた無記名

	<p>のアンケート調査を実施する。アンケートは講義終了後の時間を利用し、研究者が口頭、紙面にて説明した上で対象者に配布する。回答には一週間程度回答者に考えてもらう時間を設け、回収は個人が特定されることのないようにアンケートと同時に配布する封筒に入れ、提出場所を指定し、提出してもらう。</p> <p>(調査内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の属性：性別、年齢、所属（専攻、学年）・家族構成（家族の構成員、年齢、住居） ・両親の養育態度：サイモンズの養育態度尺度日本語版を一部引用 ・被養育体験：「よくあった」～「なかった」の4段階のリーカット法 ・対象者の自尊感情：ローゼンバーグの自尊感情尺度日本語版を一部引用 ・対象者の自己評価の程度：溝上の自己評価感情尺度の短縮版である自己評価感情尺度（SSEAS）を引用 <p>(データの分析方法)</p> <p>収集したデータを統計学的に分析する。</p>
研究期間	研究実施許可日から 2018 年 3 月 31 日
インフォームド・コンセントの方法（説明を行う者等）	研究者が研究対象者に説明書および口頭で研究の目的・方法・倫理的配慮について説明する。アンケートの提出をもって対象者が本研究に同意したとみなす。
<p>倫理的配慮</p> <p>個人情報の管理体制（個人情報管理者、連結表の管理体制等）、研究で収集した試料・同意書の保管場所、研究終了後の試料の取扱い</p>	<p>プライバシー保護のため、アンケートは無記名記入とし、回収する際にも個人が特定されないことがないように、回答後のアンケートを封筒に入れてもらい、回収場所も第三者がアンケートを覗くことができないよう、鍵のかかる学務前のポストに指定する。また、アンケートによって得たデータは研究目的以外には使用しない。回収したアンケートのうち、研究参加の同意が得られたアンケート及びその内容を入力レパスワードを付したUSBは指導教員の下で鍵のかかる書棚に厳重に管理し、関係者以外に漏洩することがないように注意する。保管の同意が得られなかったアンケートは速やかにシュレッダーにて処分する。アンケートに回答するのは対象者の自由であり、回答しなかったことで対象者が不利益を被ることはない。あくまで対象者の意思を尊重し、回答を強制することはない。</p> <p>これらのことも含め、研究目的・方法及びアンケート内容が対象者に不快感を与える可能性があることを対象者に説明書を用いて説明することで倫理的配慮とする。</p> <p>対象者に未成年者を含むため、本ホームページに研究内容を公開し、研究対象者の親権者が拒否できる機会を保証する。</p>
効果安全性評価委員会 (委員の職名・氏名・審査間隔)	
被験者に重篤な有害事象が生じた場合の対処方法	

※この概要書は、HP等で公開されることを前提に作成し、原則としてA4 2枚以内に収めること。